

【若手の会企画特別シンポジウム】

どんとこい研究者～マリンバイオテクノロジー研究者の多様なキャリアパス

鈴木 道生（東京大学大学院農）

本シンポジウムは若手の会企画特別シンポジウムとして、将来に不安を持つ若手研究者を少しでも支援したいという理念の元に、就職活動問題やポストク問題などへの具体的な対応策を様々な背景をもつ演者の先生からお聞きするという趣旨で行われた。

最初は沖縄科学技術大学院大学（OIST）の竹内 猛先生が「ポストク生活を楽しむ」というタイトルで講演を行った。竹内先生は筑波大学で博士号を取得した後に企業での派遣研究員を経て、OIST にポストク研究員として採用された。大学院生時代にはアコヤガイのバイオミネラリゼーションの研究を行っていたが、企業での派遣研究員の時代には好きな研究はできず、やはり基礎研究を続けたいという意志でポストク先を探していた。OIST での募集の話が来た時、これまでの分野とは大きく離れた情報系の知識が必要とのことで、大きな不安はあったが、実際に飛び込んでみると多くの新たな技術が習得でき、研究の幅が広がったとの話があった。ポストク研究員というと不安定なことばかりが取り沙汰されているが、このようにポストクでしかできない経験などをアクティブに体験することが重要であるという印象を受けた。

2 番目は味の素株式会社の鈴木茂雄先生が「大学を渡り歩いた経験を生かした企業研究」というタイトルで講演を行った。鈴木先生は玉川大学、東京農工大学、東京大学と様々な研究室で経験を積み、ポストク研究員の時代に味の素に入社した。元々は放線菌などの微生物の研究をしていたが、会社では藻類の研究を任されることになり、勝手は違ったがこれまでの研究のキャリアで見聞きしたことが大きな助けになったと話をされた。さらに企業の動向をよく注意し、企業が求めている人材を予測し就職活動をすればポストクからの企業への就職活動も可能であることを話され、多くの若手研究者の励みになったと思われた。

最後に北海道大学の藤田雅紀先生が「テニュアトラック制度：若手にとってのメリット・デメリット」というタイトルで講演を行った。藤田先生は東京工業大学、東京大学、ハーバードメデイカルスクール、熊本大学と様々な場所で研究のキャリアを積み、現在は北海道大学の准教授を務められている。藤田先生からはテニュアトラック制度という若手の研究者が独立して研究をできる制度についての説明があり、大学で若手研究者がアカデミックポジションを得るための具体的な手法について話があった。

本シンポジウムでは多くの参加者が熱心に演者の先生の話に耳を傾け、質疑応答も活発に行われていた。このような取り組みが若手研究者の不安を取り除き、マリンバイオテクノロジー分野で活躍する次世代の研究者の育成に少しでも貢献することができるのではないかと思われた。